

【概要】

はじめに

- 国際社会及び我が国は「地球規模課題への持続的対応」「サプライチェーン分断リスク」「革新技术への対応」「人口減少・高齢化」等の課題に直面。
- 国際標準はグローバル及び国内課題解決および経済安全保障の観点において重要な役割を果たす。
- 国際標準を通じた国際社会や我が国の課題解決、経済安全保障への貢献により、「社会課題解決」を主導し、「市場創出」を実現する。

1. これまでの我が国の取組の振り返りと国内外の動向

- ISOやIEC・ITUなどの国際標準策定機関における主要国として世界に貢献。
- 国際標準化の取組は進展するも、産業界や学術界の意識改革、専門人材育成は道半ば。
- 欧米中ではそれぞれ国際標準戦略を策定し、生成AIや気候変動・システムなどの領域横断的な標準も拡大。

2. 我が国の取組の方向性と 3. 具体的施策

○官民一体で、「国際標準戦略の明確化とガバナンス」「標準エコシステム」「産金学官の取組」「国際連携」「重要領域・戦略領域の選定」「モニタリング・フォローアップ」を実施。デジュールのみならずフォーラム標準等もカバー。司令塔機能や一元的窓口機能の強化を図る。

標準戦略の明確化とガバナンス（官民連携による司令塔・デジタルプラットフォーム）

産金学官の取組

経済界や金融界への働きかけ
（官民連携の場を通じた経営層への働きかけ、CSOの設置や投資家理解促進等）

学術界への働きかけ
（国研等における職員の国際標準活動の適正な評価の促進等）

研究開発段階の標準化支援
（国の研究開発事業における標準化支援の組み込み等）

標準エコシステム

人材育成システム強化
（各省庁による人材育成・デジタルプラットフォームによる育成・データベース整備等）

専門サービスの育成・強化
（企業とのミスマッチ解消、分野横断的な連携の促進等）

標準・認証の積極活用
（産業政策としての規制・規格・認証の一体推進（ニューアプローチ）の検討、国内規格や独自規格の策定の拡充、公共調達における調達の活用等）

国際連携

人材育成での国際連携
（各領域における国際的な人材育成等）

各国との連携強化
（ISO・IEC・ITUや各領域におけるアジア域での連携、国際相互承認の促進による認証機関の育成・強化等）

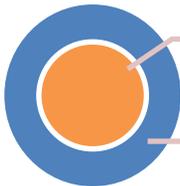
国際会議の招致
（国際標準に係る国際会議の日本招致、日本で開催される国際会議での国際標準アジェンダ化等）

重要領域・戦略領域の選定とその方向性

モニタリング・フォローアップ

4. 重要領域・戦略領域の選定とその方向性

- 国際及び国内において重要であり、国際標準が主要な課題解決策となる領域を重要領域として選定し、官民で取組を強化。
- 国際標準活動に対する我が国の取組状況・国際的な進捗状況を鑑み、対応の緊急性の観点から戦略領域を選定。



戦略領域：「環境・エネルギー」「食料・農林水産業」「防災」「デジタル・AI」「モビリティ」「情報通信」「量子」「バイオエコノミー」

重要領域：「介護・福祉」「インフラ」「フュージョン」「宇宙」「半導体」「素材」「資源」「海洋」「医療・ヘルスケア」

5. モニタリング・フォローアップと戦略の見直し

- 我が国に影響を及ぼす国際標準活動を官民で常時モニタリング、俊敏に対応。
- モニタリング対象は、国際標準化に係る新たなニーズ・シーズ、重要領域・戦略領域、今後取り組むべき新たな国際標準活動、標準先進地域・国（欧州・中国・米国等）ならびにグローバルサウス等のパートナー候補国の課題・ニーズ。
- 本戦略の施策や重要領域・戦略領域について、官民で毎年度フォローアップ。KPI設定のための方法論は継続検討。
- 2027年度に中間点検、2029年度に最終点検を実施し、適宜戦略を見直し。

